

第88回日本循環器学会開催

第88回日本循環器学会学術集会(会長=神戸大・平田健一氏:右写真)が3月8~10日、「未来につなげる循環器学——循環器病克服への挑戦」をテーマに神戸コンベンションセンターにて開催された。本紙では、薬剤師が中心に登壇したセッション「心不全療養指導士と考える最新の薬物治療の理想と現実——エビデンス/ガイドラインとのギャップは何か」(座長=慈恵医大・志賀剛氏, 聖マリアンナ医大・木田圭亮氏)の様態を報告する。



左室駆出率の低下した心不全(heart failure with reduced ejection fraction: HFrEF)の標準的薬物治療としてアンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬/アンジオテンシンII受容体拮抗薬(ARB), β遮断薬, ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬(MRA)の併用療法が確立してから20年以上が経過した一方で、「日本人の心不全患者の生命予後は本当に改善しているのか」と問題提起したのは本セッションのイントロダクションを担った志賀氏だ。

氏らの報告によれば、日本における上記3剤を用いた場合の心不全再入院の累積発生率は、2000年代に比較し2010年代で低下しているものの、心血管死の累積発生率はほとんど変化していないとされる(PMID: 32199751)。背景には3剤が目標用量まで増量されていないunderuseの問題があると指摘し、不適切な低用量療法では標準治療の根拠となったランダム化比較試験で示された効果が得られないとする文献を紹介した(PMID: 28329163)。近年はSGLT2阻害薬の心不全への適応拡大もあり、従来3剤による標準治療で限界であった心不全患者にとっては朗報がもたらされた反面で、「薬の選択も重要だが、まずは適切な用量で加療・継続することが必要だ」と心不全診療に携わる医療者へ訴えた。

◆薬物治療の効果を最大限に引き出すための工夫を

続いて登壇した大橋泰裕氏(淡海医療センター)は、HFrEFでの使用が強く推奨されるACE阻害薬/ARB, MRAといったレニン・アンジオテンシン・アルドステロン(RAA)系阻害薬について、薬理学的な視点を交え服薬フォローアップのポイントを次のように挙げた。

血圧低下: めまいやふらつき, 立ちくらみ, 倦怠感など, 症候性低血圧を想起させる自覚症状の有無を評価。患者の自己判断に伴う中断も多いため, 投

与目的や治療目標を患者と共有する。**腎機能低下:** RAA系阻害薬は輸出細動脈を拡張させる作用により腎血流量の低下を引き起こすため, 投与開始・増量時に血清クレアチニンの大幅な上昇がないかを確認。加えて, 腎血流量を低下させるRAA系阻害薬, 利尿薬, NSAIDsの3剤併用はトリプルワーマーと呼ばれ, 急性腎障害や慢性的な腎機能低下を招きかねないために注意すべき(PMID: 34845649)。**高カリウム血症:** RAA系阻害薬投与や腎機能低下, カリウムの過剰摂取, 便秘などはカリウム上昇の原因となることから, 管理栄養士や看護師と連携し生活指導を行う。**シックデイ:** 下痢, 嘔吐, 感染症などによって食事が十分に摂取できないときのことを指し, 副作用リスクが上昇する。セルフケア指導を行う際に体調不良時の受診勧奨などシックデイの対応についても普段から指導しておく。

上記を踏まえた上で大橋氏は, エビデンス/ガイドラインと現実とのギャップはあるが, 多職種力を結集し患者さんの情報を共有して適切なフォローアップを進めていくことが何よりも大切であるとの考えを示し, 発表を終えた。

国内外の心不全診療にまつわるガイドラインにおいてSGLT2阻害薬使用の推奨度は高い。にもかかわらず、「慢性腎臓病患者や高齢者, 認知症患者など, 副作用の懸念からSGLT2阻害薬を『なんとなく』導入しにくい患者はいないだろうか」と問い掛けたのは武田真央氏(川崎市立多摩病院)である。同氏は, 副作用マネジメント時に参考しやすい, 日本腎臓病薬物療法学会より発表された「SGLT2阻害薬患者指導箋」(https://bit.ly/43j1Zow)の内容を紹介しつつ, 「なんとなくの副作用に対する懸念によって導入を見送るクリニカルイナナーシャ(臨床的惰性, 註)から目をそらさないことが重要」と述べた。

この他, 超高齢社会における心不全薬物治療と服薬アドヒアランスについて石井聡一郎氏(広島大病院)が, 自院の取り組みとともに心不全における

金原一郎記念医学医療振興財団助成金

◆第8回生体の科学賞は帝京大の月田早智子氏に

第8回生体の科学賞授賞式が3月8日, 医学書院(東京都文京区)にて行われた。本賞は金原一郎記念医学医療振興財団(代表理事=上武大・澁谷正史氏)の基金をもとに, 2016年度に創設。基礎医学医療研究領域における独自性と発展性のあるテーマに対して, 研究費用全般への支援を目的に, 1件500万円の助成を行うものである。

今回は, 月田早智子氏(帝京大)による「生体機能システム構築基盤としての上皮バリア研究の新展開」が受賞した。氏は上皮細胞間バリアを構築するタイトジャンクションを基軸とした研究において, タイトジャンクション構築に必須なクローディング種の同定や, クローディング種によって多様な細胞間バリアが形成されることを明らかにしてきた。「タイトジャンクションおよびクローディングの研究を推進していくことは細胞間バリア機能の異常により引き起こされる病態の解明に直結し, 医療応用にも大いに期待が持てるだろう」と今後の研究の展望について氏は語った。

澁谷氏は代表理事の立場から, 「月田先生が今後も日本の基礎医学研究をけん引し, 若い研究者たちの指導にもますます注力されることを期待する」と激励の言葉を述べた。

◆第75回認定証(研究交流助成金・留学生受入助成金)贈呈式

金原一郎記念医学医療振興財団は3月8日, 医学書院にて第75回認定証贈呈式を開催した。同財団は基礎医学の振興を目的に, 助成金を年に2回交付している。下期である今回は, 海外で行われる基礎医学医療に関する学会等への出席を助成する研究交流助成金と, 基礎医学医療研究を目的に日本へ留学する大学院生等を助成する留学生受入助成金が交付された。今回の助成対象者は12人で, 贈呈式には研究交流助成金対象者代表の大石康博氏(理研), 他3人が出席した。

開会に際し, 金原優同財団業務執行理事(医学書院)が, 医学書院の創業者・金原一郎の遺志を継いで設立された同財団の概要を紹介。「今回の助成金を積極的に活用し, さらなる研究の一助としてほしい」と呼びかけた。

第38回研究交流助成金交付対象者を代表して, 光遺伝学を用いた知覚の神経メカニズムについて研究する大石氏があいさつに立った。氏は本助成金を活用し, 本年10月に米シカゴにて開催される第54回北米神経科学学会年次大会に参加予定。マウスを用いた遺伝学的アプローチにより感覚野を中心とした反響入力知覚にかかわることを検証した自身の研究に触れ, 「日本からの新たな知見を国際学会で発表し, 世界の研究者と意見交換することで, さらなる研究の深化につなげていきたい」と大会参加への意気込みを語った。

続いて, 第38回留学生受入助成金対象者代表のNguyen Thao氏(慶大)がビデオメッセージにてあいさつした。氏は, 本年4月より慶大先端医科学研究部がん免疫研究部門に所属し, さまざまな種類のがんに対する根治的なアプローチとして期待されている養子免疫療法の研究に従事する。あいさつの最後には「研究活動を発展させ, 科学の進歩に貢献し, 最終的には社会に良い影響を与えたい」と今後に向けた決意を表明するとともに, 今回の助成金の交付に感謝の意を表した。

*同財団助成金の詳細については, 同財団Webサイト(https://www.kanehara-zaidan.or.jp/)掲載の助成事業募集要項を参照されたい。



●写真 月田早智子氏



●写真 贈呈式には, 12人の交付対象者のうち, 東京近郊の4人が出席した。

標準的薬物療法の実施と心不全療養指導士の役割に関して大館祐佳氏(玉川病院)がそれぞれ発表を行った。座長を務めた木田氏は最後に「ぜひ今日の内容を振り返り明日からの診療に役立

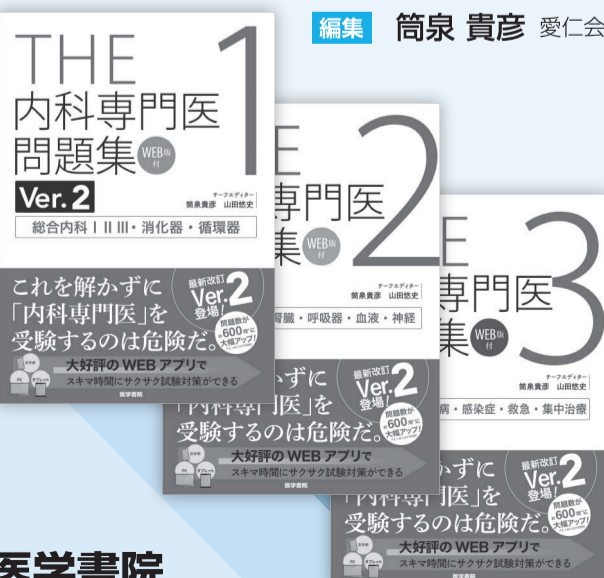
てもらいたい」とまとめ, セッションを締めくくった。

註: 治療目標が達成できていないのに治療強化をしない, あるいは使用が推奨とされる薬剤を使用していないことを指す。

内科専門医受験に大好評の臨床問題集が3巻本にパワーアップして新登場!

THE 内科専門医問題集 Ver.2 WEB版付

編集 筒泉 貴彦 愛仁会高槻病院総合内科 山田 悠史 マウントサイナイ医科大学老年医学・緩和医療科



1 総合内科 I II III・消化器・循環器
B5 頁422 定価: 7,480円(本体6,800円+税10%)
[ISBN 978-4-260-05095-1]

2 内分泌・代謝・腎臓・呼吸器・血液・神経
B5 頁458 定価: 7,480円(本体6,800円+税10%)
[ISBN 978-4-260-05096-8]

3 アレルギー・膠原病・感染症・救急・集中治療
B5 定価: 7,480円(本体6,800円+税10%)
[ISBN 978-4-260-05097-5]

- ▶エディターチームが**専門医カリキュラム**から**内科専門医試験必出のトピック**を厳選!
- ▶内科専門医試験全体の**約60%**を占める**臨床問題対策の最強ツール**, 待望の**第2弾!**

詳細はこちら



開講中!

内科系専門医試験対策のためのオンライン問題集

WEB 内科塾

要望に応え**最新収載問題数**を大幅にUP

医学書院